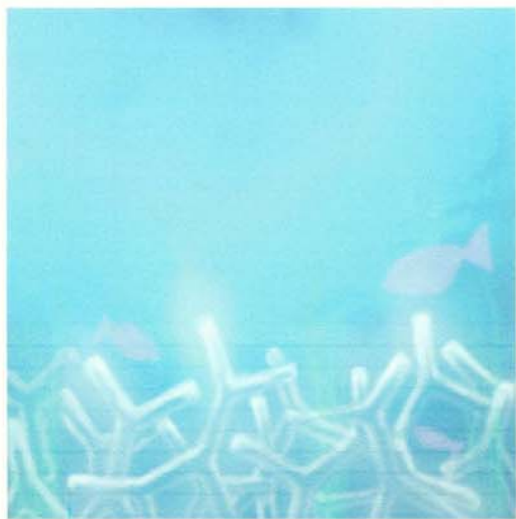


Time Sea Only Knows

長い時がたち、その砂浜に立つ僕たち人間はその砂浜ができた理由は知らない。建築がサステイナブルであるということは、長い時間がたった時に建築自身が人工物であることを忘れてしまうくらいに環境にとけ込むことであってほしい。ガラスで珊瑚礁をつくる提案。海を環境を改善するきっかけをつくる建築でありそれが長い時間をかけ段々と姿を変えながら建築は自身が建築であることを忘れていく。それくらいに長い時間で建築を考える。それは海だけが知る時間。



海の中にガラスを材料としてつくる珊瑚礁を作ることで人工の珊瑚礁を作る。ガラスという素材の特性で光を海の方まで届ける助けをし、それにより光あふれる海中となつて、それはやがて海産物の光合成を活性化させたり、さらにプランクトンを集めたり魚を育てる豊かな環境を取り戻す手助けをする。そしてガラスの珊瑚礁は海の生き物の棲む魚礁としても機能する。朽れてしまえば生き物が少なくなってしまう海を環境を元に戻すための建築の提案。



ガラスの珊瑚礁は長い時間の後に環境を改善するという役目を終える。そしてそのころには波や海中の漂流物など様々な環境からの影響を受けて砕かれ小さな固まりとなり海の底に沈んでいく。それらは小さくはなりつつ小さな魚や海の小さな生き物のすみかとなつたり、海の底でありながら光のささめる不思議な世界をつくる。さらに長い時間をかけてそれらは海の底で小さい砂通のようになっていく。それはまるで本物の珊瑚礁が一生のうちに、形や大きさから死のようになり、



小さな砂粒くらいになったガラスの珊瑚礁は、さらに長い時間をかけ砂浜を形成する一歩となる。その砂浜はほんの少しだけ光を強く反射し、さらめく砂浜となり、そこからはきれいに透き通って生命あふれる豊かな海が見える。そこに訪れて海で泳いだり、砂浜でのんびりしたりする人々はかつてそこがひどく汚れたことなど想像することなどきつとできないだろう。それくらい環境は長い時間の中で変化し、海だけが知っている長い時間、その時に建築は建築であることを忘れて、環境の一部となっている。

